



△人や地域とつながるキッカケラボのコンネクターの皆さん

「はじまりは、たのしい！面白い！から」

市民活動をしている人や団体はもちろん、活動を始めたい人も応援する「市未来共創センターキッカケラボ」。開設して1年余り、ボランティアをしている人や団体の利用から始まり、今では市内で学ぶ中学・高校生や事業をしている人、そして市外の企業や教育機関など、さまざまな人たちが足を運ぶ場所になってきました。

キッカケラボ主催の学びや体験、交流の機会への参加やスタッフへの相談をキッカケに、自身の「たのしい！面白い！」から始まり、人や地域とつながる活動へと広がっていった人たちがいます。キッカケラボの取り組みと合わせて、紹介します。

「地域活動・市民活動をしている人は幸せ？」

福津市では、定期的の実施している市民意識調査の中で、令和元年度から、個人の主観的な目線を測る「幸福度」の調査を実施しています。計測方法は、慶應義塾大学大学院の前野隆司教授が考案した方法を採用しています。

全ての調査において「地域活動・市民活動に参加している人の方が、していない人よりも幸福度が高い」という結果が出ています（下表）。キッカケラボでは、この結果に注目し、今後も調査を続けていきます。なお、幸福度調査の計測方法と調査方法は市公式ホームページをご覧ください。



幸福度調査の結果

(2,000 点満点)

調査年度	市民活動に参加している人	市民活動に参加していない人	差
令和元年度	1,099.17 点	938.94 点	160.23 点
令和3年度	1,110.67 点	903.44 点	207.23 点
令和4年度	1,038.17 点	853.10 点	185.07 点

思いをカタチに 地域とともにボランティアを



Koga Michinari

古賀 路晟

ボランティアを活発に
学校の特色を取り戻したい

「生徒たちがボランティア活動の面白さに気付いてないのが悔しい。ここに来れば何かできるんじゃないか」と、父親とともにキッカケラボを訪ねたのは福岡東中学校に通う古賀路晟さん。古賀さんは、福岡東中学校の生徒会長を務め、その公約としてボランティア活動を活発にすることを掲げています。

福岡東中学校では、除草作業などの「校内ボランティア」と、地域の相撲大会の準備などの「地域ボランティア」に積極的に取り組んでいます。しかし、ここ3年間は、コロナ禍の影響で校内ボランティアばかりを行ってきました。古賀

学校でボランティア講座 地域を動かした行動力

キッカケラボで自分の思いを伝え「何かできないか」を協議した結果「ボランティアの面白さを伝えるための講座が開催できる」とキッカケラボのスタッフから提案を受けた古賀さん。

その提案を中学校に持ち帰り、校長先生や教頭先生に相談しました。すると先生たちは大いに喜び「すぐにやろう」と、PTAも協力し、学校を挙げて動き始めました。

礎を築き 次の代へ

「コロナ禍の影響がある以上、僕の代でできることは限られている。僕たちが卒業してからでも、他のどの中学校よりもボランティア活動を活発にしてほしいし、地域ともしっかりつながってほしい。特色やいろいろな魅力がある福岡東中学校にしてほしい」。間もなく高校受験を控えている古賀さんは、その礎を築き、次の代にバトンタッチしたいと語っていました。



▲講座の感想を伝え合う中学生と地域の皆さん



▲郷づくり推進協議会で思いを伝える古賀さん



東京から福津に移住 地域とつながったバススクール



Mochizuki Keitaro

望月 啓太郎

バススクールで「やりたいこと」を実践

東京での仕事を退職し、昨年、福津に移住してきた望月啓太郎さん。市が開催するイベントなどに参加して地域とつながろうと模索していたとき「場づくりファシリテーター実践塾（バススクール）」に出会いました。

バススクールとは、地域の担い手となる仲間を増やしたり、人が集いたくなる場づくりのコツを学んだり、実際に小さく実践して自信をつけていくものです。望月さんが参加した昨年度のバススクールでは、受講生23人が4チームに分かれて「やりたいこと」をテーマに、小さな実践に取り

働くモヤモヤをワクワクに変えたい

「今している仕事に不満があったり、モヤモヤを抱えていたりして自分の思い通りに仕事している人はそんなにいないのではないかな。もっと自由に選択できる社会になればいいのに」という思いが根強くある望月さん。そんな「働くモヤモヤ」をみんなを持ち寄り、より良い方向に変えていくような対話の場ができればと「大人のキツザニアプロジェクト」というチームを結成しました。そして、昨年12月に「WAKU WAKU WORK」に「私たちの働く未来」を開催し、対話などを通してそれぞれ

の働く悩みや理想と向き合い、働くモヤモヤをワクワクに変える働きかけを行いました。

**増えた地域とのつながり
やりたいことで自由に生きる**

望月さんは、この活動でさまざまな人と出会い、地域とのつながりが一気に増えたと言います。また「これからはより自由に仕事を選択できる社会になっていくだろうし、選択肢が増えていく中で、周りの人との『関わり方』を学べた。今までは組織の中の一員として、その組織のルールで動き、型にはめた関わり方になっていただけで、そこから脱することができた」と成長を語ります。

フリーランスとして人材開発などの仕事をしながら、地域では郷づくり活動で広報部会に参加するなど「自分がやりたいことをやって、目指したいものを目指す。自律した生き方に挑戦することはハードルもあるけれど、日々楽しい。安定した仕事でなくても『やりたいこと』ができていますから充実している」と語っていました。



▲WAKU WAKU WORK で司会進行をする望月さん



▲福岡地域郷づくり推進協議会でも活躍する望月さん

人と人の縁でつながった 福祉ネイル



Yoshida Masako

吉田 雅子

心のケアを重視する福祉ネイル

「福祉ネイルを通して地域のかたがたに『癒やし』『元氣』『笑顔』を届けたい」と語るのは、昨年8月から福祉ネイルストとしての活動を始めた吉田雅子さん。福祉ネイルとは、主に高齢者や障害のあるかたを対象に、施設や自宅に訪問して、爪に化粧を施すネイルサービスをするものです。

「美」に特化する通常のネイルサロンとは違い、見た目の美しさもあるけれど、それよりも心のケアを重視するのが福祉ネイルです。

吉田さんが福祉ネイルと出会ったのは、今からおおよそ3年前「長く続けられる仕事を

**人の縁でたどり着いた
キッカケラボ**

早速、福祉ネイルリストの資格を取得しましたが、なかなか思うようにはいきません。コロナ禍の影響で人との接触は制限され、高齢者施設などで活動したくても、入れてもらうことすらできず、体験会も開催できない日々が続きました。

高齢者施設だけでなく、郷づくり推進協議会などでも「何か活動できる機会はない

か」と相談した吉田さん。そこで出会った人の紹介でキッカケラボを訪ねました。

**誰かの支えがあつて
思いが伝えられる**

「キッカケラボで相談したら、地域で開催されているマルシェを紹介してもらったり、キッカケラボがイオンモール福津で開催した『キッカケマルシェ』に出店したりできた。マルシェに参加したことがきっかけで、ちょっとした活動が広がってきている」。元々人見知りなところがあるという吉田さんですが、福祉ネイルの活動を始めてから、自分の思いをわかってもらおうと積極的に話ができるようになったと言います。

今もなお、感染症による被害はあるものの「人と人がつないでくれた縁で活動の幅が広がった。いろんな人の支えがあるからこそ、皆さんを笑顔にしたいという思いが伝えられる」と、これからも新たなつながりを求めて、地道に活動していきたいと話していました。



▲キッカケマルシェで福祉ネイルを施術する吉田さん



▲子どもたちにも人気の福祉ネイル

人や地域とつながるキッカケをサポートします

プロジェクト 発表会・交流会の お知らせ

12月3日(日)開催

バスクール 2 期で生まれたプロジェクトの発表会と、2 期生と来場者との交流会を催します。皆様のご参加お待ちしております。

日時：12月3日(日)午後1時30分～午後4時30分
場所：ふくとびあ

受付方法：11月30日(木)までに、氏名・連絡先(電話またはメール)を電話または右のQRコードの申し込みフォームのいずれかでキッカケラボまでご連絡ください。



※託児を利用する場合は11月23日(木・祝)までに電話でご連絡ください。なお、対象は生後5カ月以上の未就学児です

問い合わせ：キッカケラボ ☎42・9071

昨年度のプロジェクト発表会・交流会に参加し、こんなにまにに関心がある人が若い世代にいたのだと衝撃を受けました。また、その後の交流会で出会った人に、地域の文化祭に関わってもらえることになりました。キッカケラボやバスクルの活動が広がることで、若い人とまちづくりの接点ができてきた気がします。こくりの接点が広がって郷づくりと若い世代の境界線もなくなっていくとうれしいです。

前回の参加者

神興東地域郷づくり
推進協議会会長
奥 弘子さん



バスクール2期生の声
木村ゆうみさん(30代)

人とのつながりや福津市のことに興味があって参加しました。チームリーダーとして、最初は「自分が引っ張らなきゃ」と思っていたのですが、バススクールで学んだ対話の視点を生かすことで、メンバーの想いに触れ、自身の視野が広がりました。1人ではできないことも、みんなでアイデアを出し合えば企画を実現できることを実感しています。



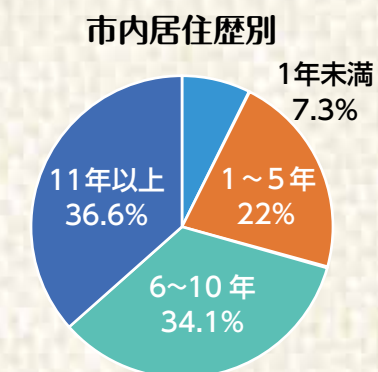
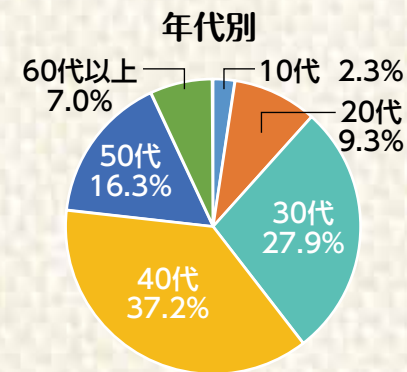
バススクール2期の動き
1期生が2期生の相談やサポート役に！

2期は令和5年6月から始まり、場づくりについて、対話と学びを重ねています。現在は、左記の最終回に向けて、5つのプロジェクトに分かれ、小さな実践が進められています。伴走役は1期に続いて、山口寛さん(津屋崎ランチ、LOCAL&DESIGN株式会社)が務めます。また、1期生が自身の経験を生かし、2期生の相談役や運営サポート役として活躍しています。

参加が難しいといわれている
30～40代の参加者が6割越え！

昨年度から開催し、1期生23人、2期生20人が参加しています。参加者は30～40代が全体の65.1%、市内居住歴10年以上の人が全体の63.4%となっています。仕事や家庭に忙しく、地域とのつながりが薄いと一般的にいわれている人たちが中心となって「自身のやりたいこと」「地域にいいこと」を組み合わせた場づくりを実践しています。

※令和5年度2期の受講受け付けは終了しています



「場づくりファシリテーター実践塾 BA-School(バススクール)」
地域の担い手となる仲間を増やし、人が集いなくなる場づくりのコツを学び、実際にみんなで小さく実践して自信をつけていくプログラムです。場づくりの学校として、バススクールと名付きました。約半年間にわたっての全6回講座をとおして、場づくりのコツとして、みんなが安心して語り合える対話の重要性や促進するための技術(ファシリテーション)も学びます。

参加までの簡単3ステップ

1. 受け付けをする

キッカケラボの窓口で、自分好みのプログラムを選び、申し込みをする。
※オンライン申し込みもできます。キッカケラボへお問い合わせください

2. 日程調整をする

キッカケラボが受入団体と日程調整を行い、体験日をお知らせします。

3. 参加する

当日は受入団体のかたに教わりながら、体験を楽しみましょう。

問い合わせ：キッカケラボ ☎42・9071
メール：292machilab@gmail.com



プログラム(例)

①海のごみでつくるキーホルダーづくり

【一般社団法人くらげれんどう】

ビーチクリーンをした人に渡す、海のごみを使ったキーホルダー作りの一部を手伝います。

②子どもたちのワクワクから始めるプログラミング

【J Space】

プログラミング教室代表の足立憲正さんから仕事のやりがいについて話を聞き、授業の手伝いをします。

③障がい者の就労訓練のサポート

【就労支援センターほほえみ】

障がい者の就労訓練をしているB型作業所で、利用者が行う作業の手伝いをします。

※プログラムの詳細およびその他のプログラムは市公式ホームページをご覧ください



「ふくつたいけんプログラム」

市民活動団体の活動に参加したり、充実した毎日過ごす人の仕事をサポートしたりと、普段はなかなか垣間見ることができない「福津のいいところ」が詰まった一日体験プログラムです。令和5年9月末現在、14プログラムを準備しています。初心者でも取り組みやすい内容になっています。自分の「やりがい」や「たのしい」「面白い」を見つけた人にお薦めです。